

施策項目 1 3 いじめの防止や不登校児童生徒への支援の取組の充実

[評価結果]

【担当課：生徒指導・学校安全課】



担当課HP

総合評価	進展あり
-------------	-------------

定量評価 [指標]	C
-----------	---

指標	評点	(a)	(b)	(c)	(d)
	評価数	3	4	2	2
	d評価となった指標	④			

定性評価 [施策]	進展あり
<p>スクールカウンセラー（SC）及びスクールソーシャルワーカー（SSW）の配置の拡充や電話・メールのほかSNSを活用した相談の対象者拡充等により、児童生徒の相談体制の整備が進展した。 いじめ対応支援ツールを作成・配付するとともに、指定事業などを通じて、子ども理解支援ツール「ほっと」などの調査結果を活用した取組の先進事例を収集し、全道に普及した。</p>	

[施策の推進状況]

【P】・・・「Plan 令和4年度の主な施策」 【D】・・・「Do 主な取組の状況」
【C】・・・「Check 施策の課題」 【A】・・・「Action 今後の方向」

《課題・背景》	<p>(1)いじめへの取組の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> いじめの認知件数が0件の学校が一定数あることから、いじめの早期発見・早期対応に向けて、全教職員でいじめを積極的に認知し、解消に向けて組織的に対応することが必要 いじめの認知件数が増加傾向にあることから、いじめの未然防止に向けて、児童生徒の人間関係づくりを支援する取組やコミュニケーション能力の育成を図る取組を推進し、アセスメントツール等を活用して取組の検証を行うことが必要 平成30年度から実施しているSNSを活用した相談については、利用者の満足度において一定の成果がみられたことから、継続した取組が必要 <p>(2)不登校への取組の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 不登校児童生徒数が増加傾向にあることから、不登校の未然防止に向けて、児童生徒の人間関係づくりを支援する取組やコミュニケーション能力の育成を図る取組を推進するとともに、不登校児童生徒に対して学校内外の機関等において相談や指導・支援を行うことが必要 <p>(3)教職員の資質・能力の向上と学校体制の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> いじめの定義を限定的に解釈しているなどいじめの認知に関わる課題が見られることから、引き続き、生徒指導に係る校内研修の充実を図ることが必要 不登校児童生徒の支援について、学校と心理や福祉の専門家と連携した取組が一層求められていることから、学校と関係機関が「児童生徒理解・支援シート」等をともに情報共有し、継続してきめ細かな支援をすることが必要
---------	--

(1)いじめへの取組の充実	<p>① スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーの役割の一層の普及啓発</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校等の要請によらず行うアウトリーチ型の支援や、SSWの資質向上のため、チーフSSWを活用した指導助言体制の検討 <p>② いじめ問題への適切な対応に資する取組の推進</p> <p>③ 事業指定校における児童生徒の受容を促す効果的な取組の普及啓発</p> <p>④ いじめ根絶に向けた児童生徒主体の取組を共有・拡大する機会の充実</p>	[D]
[P]	<p>① 教育局と連携した支援やアウトリーチ型によるスクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーの派遣（道SSW168回派遣）</p> <ul style="list-style-type: none"> 「子ども相談支援センター」による年間（24時間対応）を通じた電話相談の継続した実施（相談件数延べ2,354件） 「SNSを活用した相談事業」の相談対象及び実施期間の拡充（私立中・高校生に拡大、実施期間：令和4年5月16日～令和5年3月27日までの月曜日、前年度より約1か月程度拡充） チーフSSWを活用した指導助言体制の充実 <p>② 各種会議や研修会におけるいじめ問題への対応に係る説明や支援ツール等の普及啓発（通年）</p> <p>③ 「中1ギャップ問題未然防止事業」や「高校生ステップアップ・プログラム」等の指定事業における子ども理解支援ツール「ほっと」の結果を活用した効果的な取組事例の普及啓発</p> <p>④ 各管内における「どさんこ子ども地区会議」の実施及び児童・生徒会が主体となった取組の普及啓発（9～12月 14管内で実施）</p>	[C]
[A]	<p>① SSWの啓発とケース把握のためのSSW相談会を各管内で実施</p> <ul style="list-style-type: none"> 市町村教育委員会との連携強化や、調査結果等を活用した各種会議等における説明や学校訪問での指導助言 各種研修や学校訪問等における学校の取組の把握及び効果的な実践事例の紹介 どさんこ地区会議の実施方法、範囲、内容、回数等の工夫・改善 	[C]

(2)不登校への取組の充実	<p>① スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーの役割の一層の普及啓発</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校等の要請によらず行うアウトリーチ型の支援や、SSWの資質向上のため、チーフSSWを活用した指導助言体制の検討 <p>② 事業指定校における不登校児童生徒へ取組の普及啓発</p> <p>③ 教育支援センター等における児童生徒への支援の普及啓発</p>	[D]
[P]	<p>① 教育局と連携した支援やアウトリーチ型によるスクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーの派遣（道SSW168回派遣）</p> <ul style="list-style-type: none"> 「子ども相談支援センター」による年間（24時間対応）を通じた電話相談の継続した実施（相談件数延べ2,354件） 「SNSを活用した相談事業」の相談対象及び実施期間の拡充（私立中・高校生に拡大、実施期間：令和4年5月16日～令和5年3月27日までの月曜日、前年度より約1か月程度拡充） チーフSSWを活用した指導助言体制の充実 <p>② 「中1ギャップ問題未然防止事業」や「高校生ステップアップ・プログラム」等の指定事業におけるICTを活用した不登校児童生徒へ支援事例の普及啓発</p> <p>③ 不登校児童生徒支援連絡協議会の開催（9月、1月開催、約650名参加）や教育支援センター等の実践事例の普及啓発</p>	[C]
[A]	<p>① SSWの啓発とケース把握のためのSSW相談会を各管内で実施</p> <ul style="list-style-type: none"> 各種会議、研修会等における不登校の段階（不登校傾向・不登校継続）に応じた取組や対応の普及啓発 児童生徒が自らの進路を主体的に捉え、社会的に自立する方向を目指す支援など、普及啓発する内容の改善 	[C]

(3) 教職員の資質・能力の向上と学校体制の充実			
年度 [A]	[P]	①学校教育指導や各種会議・研修でのいじめ問題や不登校児童生徒への対応に係る説明及び指導助言	①全道校長会や学校教育指導訪問での説明、管内生徒指導研究協議会等におけるオンデマンドや指導通知などを活用した研修の実施（6月 校長対象のオンデマンド研修実施、管内生徒指導研究協議会参加者にオンデマンド研修を実施（14管内））
	[C]	①各種会議や研修における説明内容や指導助言等について、令和4年12月に文部科学省から示された生徒指導提要による「重層的支援構造」に基づく取組の改善が意識できるよう見直し	①各種会議や研修等を実施したが、いじめを認知した学校は60%程度であり、不登校児童生徒は増加傾向にあるため、日々の教職員の児童生徒への挨拶、声掛け、励まし、賞賛、対話及び授業や行事等を通じた集団への働き掛けである「発達支持的生徒指導」や課題未然防止教育の充実、「北海道いじめ防止基本方針」を踏まえたいじめ早期発見・早期対応の徹底を図ることが必要

[指標の状況及び評価]

指標の内容	基準値	目標値（上段）						進捗率	評価	出典 (調査名等)	実施 主体	調査期 日又は 調査対 象期間	指標の 対象	
		実績値（下段）												
		(H29)	(H30)	(R元)	(R2)	(R3)	(R4)							
① 「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」という設問について、「当てはまる」と回答した小学校6年生、中学校3年生の割合(%) 【全国学力・学習状況調査】	小	(H29) 83.2	すべての児童生徒が「当てはまる」と回答することをめざす						87.5%	c	全国学力・学習状況調査	文科省	R4.4.19	公立小・中学校の児童生徒（小6・中3）
	中	(H29) 73.5	83.2	88.0	87.2	(88.9)	87.5	86.9	83.7%	c				
② 文部科学省調査の「いじめの認知件数」のうち、「解消しているもの」の割合(%)	小	(H28) 97.8	認知したすべてのいじめが解消されることをめざす						95.9%	b	児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査	文科省	R3年度	公立小・中・高等学校の児童生徒
	中	(H28) 96.9	97.3	96.9	97.0	95.8	95.9	R5.11	96.5%	b				
	高	(H28) 98.7	97.3	96.7	96.9	95.7	96.5	R5.11	96.1%	b				
③ 定期的にネットパトロールを行っている学校の割合(%)	小	(H28) 95.8	100						100%	a	北海道児童生徒ネットコミュニケーション見守り活動年間報告	道教委	R4年度	公立小・中・道立高等学校
	中	(H28) 95.0	100	100	100	100	100	100	100%	a				
	高	(H28) 100	100	100	100	100	100	100	100%	a				
④ 文部科学省調査の「不登校児童生徒」のうち、「学校内外の機関等」において相談・指導等を受けた児童生徒の割合(%)	小	(H28) 80.0	90.0	100	100	100	100	R5.11	79.6%	d	児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査	文科省	R3年度	公立小・中・高等学校の児童生徒
	中	(H28) 81.6	83.9	85.6	84.5	79.7	79.6	R5.11	77.7%	d				
	高	(H28) 50.1	90.0	100	100	100	100	R5.11	93.8%	b				
評価結果	(a) 指標数	(b) 指標数	(c) 指標数	(d) 指標数	定量評価		C							
新型コロナウイルス感染症の影響により実績値が伸びなかった指標又は低下した指標に対する今後の取組														
d評価に対する今後の取組		④ ・スクールカウンセラーの派遣の拡充 ・各種の相談機関をまとめたリーフレットを作成し周知												